2024年度 中期目標・計画および学長方針に基づく自己点検・評価結果

中期目標・計画項目	目指す成果・達成状態	今年度(2024年度)の振り返り	課題	次年度(2025年度)取り組むこと
「ブランディング」	<p>大学のブランド価値を高めるための様々な戦略が策定できている状態。</p>	<p>大学のブランド構築とその浸透に向けた基盤整備として、ブランドコンセプトの明確化を中心に取り組みを進めた。ブランドを「コアバリュー(本質)」「ビジョン(未来像)」「バリュープロポジション(提供価値)」の3要素に整理し、これらを言語化したことで、ブランドの方向性や構造の共通理解が関係者間で行われた。</p>	<p>ブランド浸透のための具体的な施策や測定指標の策定には至らなかった。各学部・部署での取組が個別に行われており、学内全体でブランドイメージを共有・活用する体制が整っていない。</p>	<p>明確化されたブランドコンセプトに基づき、「ブランドスローガン」を策定し、その活用を通じて学内外へのブランド浸透を図る。また、ブランド浸透度を測定するための指標の策定し、戦略的なブランディング施策の実施体制を整備する。</p>
「進路・就職」「教育・研究」「学生・生徒支援」	<p>A. 学生の現状及びニーズ等を把握した上で、多様なキャリア形成と進路支援の機会を提供できている状態。</p> <p>B. 新設学部を含めた新カリキュラムが滞りなく運用できている状態。</p> <p>C. 学生の現状及びニーズを把握した上で、学生の成長及び満足度向上に資する学生支援の機会を提供できている状態。</p>	<p>教育・学生支援に関する各施策では、一定の進展が見られた。特に、2027年度改革に関係する初年次教育およびリメディアル教育の強化を踏まえたカリキュラム改革、入学前教育、転学部・転学科制度、専門職連携教育の再構築に関しては、それぞれの目的や課題を整理し、方針を策定するなど、概ね計画どおりに達成された。</p>	<p>IPE再構築における物的・人的課題、ICT環境整備に対する予算制約、アカデミックアドバイザーによるフィードバックコメントの入力率をはじめ、Assessorの活用が十分に浸透していない状況などの個別課題に加え、アセスメントプランが円滑に機能していない。また、学生の自己成長を促す仕組みの定着や学修成果の実感につなげる工夫が必要である。加えて、2027年度改革にかかる学修者本位の学生支援の施策については議論を活性化させ具体化させる必要がある。</p>	<p>課題を踏まえ、予算上の課題等については関係部署と引き続き調整を図るとともに、各学科・関係委員会にさらに点検・評価活動に積極的に取り組んでいただくため、アセスメントプランの実質化を図るべく、プラン全体の見直しを行う。また、ツールとして使用しているAssessorの運用・利用・活用面における課題の整理を行い、改善策を検討する。加えて、学生満足度を把握し、2027年度改革の方針に沿って、多様な学生に応じた学修者本位の教育と学生支援の実現に向けた取組みを具体化していく。</p>
「学生・生徒募集」「学校間連携」	<p>A.【2025年度入学選抜】着実に実施している状態。</p> <p>A.【学生募集】一人でも多くの入学者を獲得すべく都度戦略を見直し、実行することで、定員充足している状態。</p> <p>B.【高大連携】前年度検討した連携を開始し、年内入試において、高大連携校からの入学者数が増加している状態。</p>	<p>A.全学科・専攻で検討会を設置し、オープンキャンパスの実施内容の検討や、年間を通じてホームページの更新・改修などを行い、特色検討・発信を行った。しかし、医療系の人気低迷、国立大学への進学志向により、競争が激化する中で、入学定員に対する入学者数の確保を達成することはできなかった。</p> <p>B.学園内設置校については、各事業の継続に加え、新規の取り組みも行った。具体的には、学園設置校で実施する進路説明会へ入試センター職員だけでなく、本学教員と在学生も派遣、本学がある広島県に興味を持ってもらえるように設置校内の食堂にて広島の特産品を使ったメニューを提供、本学の学園内出身在学生の交流会など、新たな取り組みも実施したが入学者確保に繋げることが出来なかった。高大連携校は、重点校をはじめとする大学見学の受け入れや出張講義、連携授業など幅広い連携を行った結果、目標を上回る入学者を確保することができた。</p>	<p>A:マーケティングオートメーションやホームページの改修を行い、学科・専攻の特色を発信してきた。発信した特色が実際に実現できているかの検証が必要。また、検討会が継続的に学科・専攻と繋がり、特色を発信する継続的な施策も必要である。</p> <p>B:募集状況改善のため、各設置高校の生徒へアンケートを実施したところ、広国大を良く知らない生徒が半数以上いた。</p>	<p>教職協働で検討会を実施し、特色について見直しを行うとともに、受験生が興味・関心を持てる広報展開や従来獲得できていなかった受験者層に向けたアプローチを行い、定員の確保をめざす。設置校内の食堂内に本学のPRポスターを掲出、学園内出身在学生と連携しオープンキャンパスや高校内ガイダンスで本学の魅力を学生目線で発信するなど、本学へ興味を持ってもらえる施策を実施し、入学者確保に繋げる。アンケート結果を踏まえ、2025年度は、各事業の継続に加え、学園内の中高生・保護者・教職員にオープンキャンパスへの参加など、本学の特色や活動を深く理解してもらう施策を強化する。高大連携事業は、今後、入試に直結する取組みを導入するなど、連携事業をより拡大・充実させる。</p>
「社会貢献」「グローバル化」「社会連携」	<p>再構築した新体制を試行実施するとともに、次年度の本格スタートに向けた準備が完了しており、地域貢献活動の更なる充実に向けた連携・交流を促進できている状態。</p>	<p>2024年度から新たな社会貢献活動として取り組む「広国市民大学」と「東広島市Town & Gown Office(TGO)」について、東広島市や学内の教職員等の協力を得ながら様々なイベントや講座を実施した。これらの活動により、近隣の地域・社会においても本学の取り組みが徐々に認知され始めたと考えている。</p>	<p>「広国市民大学」や「東広島市TGO」等により、新たに教育・研究と連動した取り組みが広がっている。今後の活動を本学の特色としていくためには、それらの活動に参加する教職員・学生、自治体・地域の方の裾野を広げ、更に全学的な活動として大きく育てていく必要がある。</p>	<p>広国市民大学においては、社会科学地域創生学専攻の正課として取り組む「広国市民大学運営プログラム」のスタートにあたり教職協働での運用を進める。また、本学が地域・社会と連携し、本学の活動・取り組みについて、さらに広く認知していただくために、地域・社会に向けたイベントを計画していく。</p>
「人事(FD/SD)」	<p>教職員の能力開発(FD/SD)に関する検討組織(仕組み)が整備され、全学的な研修プログラムが運用されている状態。</p>	<p>FD・SD推進委員会において、教職員に求められる役割に応じて、「知識・スキル」「マインドセット」「コンピテンシー」の枠組みで必要な能力を整理した。また、新たにSD委員会(準備会)を設置し、FD・SD推進委員会を中心にFD委員会およびSD委員会と協力のうえ各種研修プログラムの運用を行う体制を整備し、2025年度の研修プログラムを策定(改善)した。</p>	<p>求められる役割と教職員の評価制度との連動について、現在の教員活動評価の項目等で、教職員に求められる役割に必要な能力が評価できるか検証が必要になる。</p>	<p>今後は、新たなFD・SD研修プログラムを実施するとともに、検証方法を確立して検証を行い、さらなる改善に繋げていく。また、学内共有サイトの充実化など、教職員が身に付けておくべき知識の周知・共有の強化を図る。</p>
「組織運営体制」	<p>【現状の組織】段階的に構築した体制に基づき、各種事業に取り組んでいる状態。組織力を強化できる体制の構築が完了している状態。</p> <p>【改革推進組織】新体制で、各種改革を検討・着手・実行している状態。</p>	<p>新たな内部質保証体制の基、学長方針実行シートを用い計画どおり点検・評価活動を行った。また、委員会の見直しについても2025年度からの運用開始に向けた準備を完了した。</p> <p>2027年度改革について、「教育・学生支援」「組織」「財務」それぞれの方向性について策定し、学内に広く周知した。</p>	<p>IRセンターにおいて分析した分析結果を、各施策の改善に繋げていく必要がある。2027年度改革においては、2025年度の厳しい入学状況を鑑み、全体の方向性について再度検討することが必要である。</p>	<p>内部質保証体制について、各学部・学科が主体的に改善活動に取り組める体制への見直し、およびIRを活用した意思決定・改善活動の活性化を図る体制への改善を図る。また、2027年度改革について学園本部との連携を強化し実行性の高い施策とする。情報公開について、規定等を整備する等の計画的な実施ができるよう体制を整備する。</p>
「財務」	<p>1. 財務バランスが前年度より改善している状態。</p> <p>2. 前年度の実行内容の検証および見直しにより、改善策を実行できている状態。</p>	<p>2024年度の教育活動収支差額比率は1.5%であり、前年度比0.5%増となり、目標を達成することができた。2025年度予算編成について、経常的経費の見直しにより目標金額に留めた予算案を完成させた。</p>	<p>2025年度以降、空調新設・更新や野球場の設置にかかる支出が増え収支バランスが大きく崩れることが予想される。また、実習室等の高額備品の修繕、更新が必要となり工面が必要である。</p>	<p>前年度に引き続き、費用対効果の検証等による支出予算削減策の取り組みを行う。</p>